

日本海側拠点港の 取り組み状況について（報告）

国土交通省 港湾局
平成26年8月6日

日本海側拠点港について

- ・経済成長著しい対岸諸国と地理的に近接する日本海側港湾において、既存ストックを活用しつつ、伸ばすべき機能の選択と施策の集中及び港湾間の連携を通じて、対岸諸国の経済発展を我が国の成長に取り入れるとともに、東日本大震災を踏まえた災害に強い物流ネットワークの構築にも資することを目的とする。
- ・現在、日本海側拠点港の港湾管理者は、日本海側拠点港の形成に向けた計画書に基づき取り組みを実施しているところ。

【日本海側拠点港（19港、28計画）および拠点化形成促進港（4港、4計画）位置図】

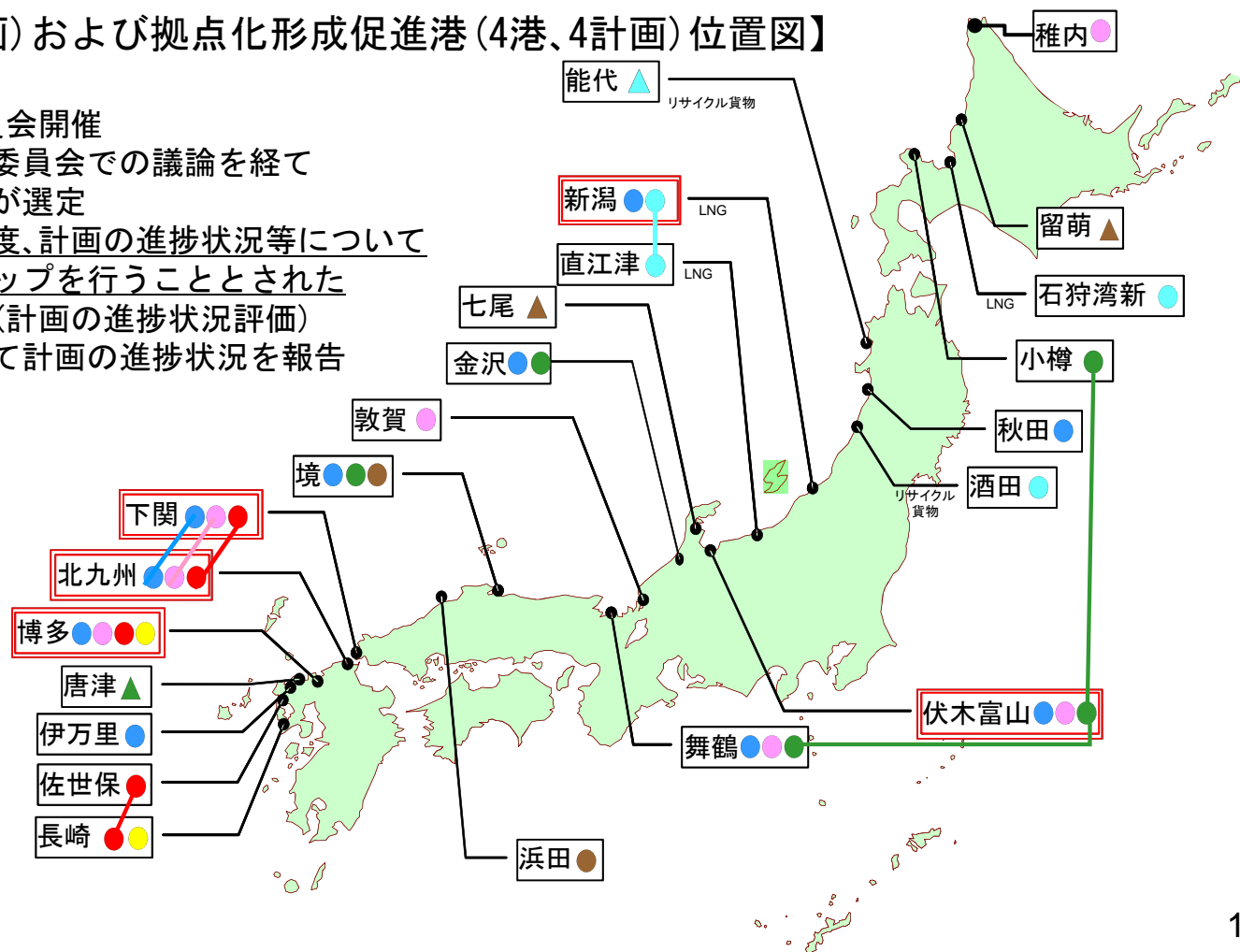
○主なスケジュール

- ・平成22年11月24日 第1回検討委員会開催
- ・平成23年11月11日 10回にわたる委員会での議論を経て国土交通大臣が選定
 ※1年に1回程度、計画の進捗状況等についてフォローアップを行うこととされた
- ・平成24年 9月12日 第11回委員会（計画の進捗状況評価）
- ・平成26年 8月 6日 港湾分科会にて計画の進捗状況を報告

日本海側拠点港〈19港、28計画〉

- 総合的拠点港（日本海側拠点港のうち5港）
- 国際コンテナ
- 国際フェリー・RORO
- 国際定期旅客
- クルーズ（定点）
- クルーズ（背後観光地）
- 原木
- その他

△ 拠点化形成促進港〈4港、4計画〉



日本海側拠点港について

● 総合的拠点港 〈5港〉

「新潟港」、「伏木富山港」、「下関港」、「北九州港」、「博多港」

※日本海側拠点港19港のうち、取扱貨物量等様々な指標からみて、他の日本海側港湾に比較して総合的な発展可能性が高いと認められる港湾を選定

● 日本海側拠点港 〈19港・28計画〉

国際海上コンテナ 〈10港・9計画〉	「博多港」、「北九州港・下関港」、「新潟港」、「伏木富山港」、「秋田港」、「伊万里港」、「境港」、「舞鶴港」、「金沢港」
国際フェリー・国際RORO船 〈7港・6計画〉	「博多港」、「北九州港・下関港」、「敦賀港」、「稚内港」、「伏木富山港」、「舞鶴港」
国際定期旅客 〈5港・3計画〉	「博多港」、「北九州港・下関港」、「長崎港・佐世保港」
外航クルーズ(定点クルーズ) 〈2港・2計画〉	「博多港」、「長崎港」
外航クルーズ(背後観光地クルーズ) 〈5港・3計画〉	「小樽港・伏木富山港・舞鶴港」、「金沢港」、「境港」
原木 〈2港・2計画〉	「境港」、「浜田港」
LNG 〈3港・2計画〉	「直江津港・新潟港」、「石狩湾新港」
リサイクル貨物 〈1港・1計画〉	「酒田港」

● 拠点化形成促進港 〈4港・4計画〉

「留萌港」(原木)、「能代港」(リサイクル貨物)、「七尾港」(原木)、「唐津港」(外航クルーズ(背後観光地クルーズ))

※上記4港については、「日本海側拠点港」としての選定には至らなかったが、拠点港選定に向けて官民挙げて熱意を持って計画を立案・提案したことに鑑み、該当機能に係る「拠点化形成促進港」として選定し、その計画の実現を後押しするためフォローアップを行っていくもの。

「基本方針」と日本海側拠点港との関連

「港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針」と、日本海側拠点港との関連は、以下のとおり。

港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針(抄)平成26年1月

V 港湾相互間の連携の確保

3 広域的な港湾相互間の連携

① 日本海沿岸における環日本海交流と地域振興への取組

日本海沿岸地域においては、対岸諸国の経済・社会等の状況変化、三大都市圏等との陸上アクセスの向上等により、今後、日本海側の港湾を經由した環日本海交流が益々進展することが見込まれる。このため、海陸の交通が結節し、交流の拠点となっている各港湾が、それぞれの地理的特性やその他の優位性を活かしつつ、全体として相互に連携して、ネットワークを形成し、環日本海交流の一層の促進に寄与する。

また、このような環日本海交流の動きと併せて、地域の交流の歴史や文化を活かした地域振興への取組を、関係者と連携して進める。

なお、古くからの物資の輸送を北回り航路等の海運が支えてきた日本海沿岸地域では、歴史的資産等を活用して、環日本海のみなとまちをクルーズ船で結ぶことにより、観光による地域の振興を促進する。

各港の取り組み状況について

平成25年12月に日本海側拠点港（拠点化形成促進港含む）の港湾管理者に対し、「日本海側拠点港の形成に向けた計画書」の主な取り組み状況と今後の予定を調査。

事例① 太平洋側大規模災害発生時を想定した代替輸送訓練（国際海上コンテナ）

首都圏直下地震、南海トラフ型巨大地震を想定地震として、関東圏および中京圏の企業が日本海側港湾で代替輸送を行うとした模擬訓練を実施 【新潟港・伏木富山港・金沢港・敦賀港】

- 参加者：太平洋側港湾利用荷主、京浜港及び名古屋港が被災した際の代替輸送に関心のある企業等
 (1) 荷主 (2) 陸運（物流業者） (3) 海運事業者 (4) 倉庫業者 (5) 船社 (6) 港湾管理者
- 訓練の概要：東京会場および名古屋会場において、ワークショップおよび図上訓練を実施
 （代替輸送を行うための手順の確認、模擬災害体験演習、課題整理等）

東京会場：M9首都圏直下型地震により、京浜港（東京港、川崎港、横浜港）が使用不能という想定

名古屋会場：M9南海トラフ型巨大地震により、名古屋港が使用不能という想定

（東京会場）



（首都圏開催）

「首都圏直下型地震に対応した代替輸送訓練（ワークショップ）」

- ・日時：平成25年 6月18日（火）13時～16時
- ・場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・参加人数：約120人

「首都圏直下型地震に対応した代替輸送訓練（図上訓練）」

- ・日時：平成25年 8月23日（金）12時～16時30分
- ・場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・参加人数：約125人

（中京圏開催）

「南海トラフ巨大地震に対応した代替輸送訓練（ワークショップ）」

- ・日時：平成25年 8月 1日（木）13時～16時
- ・場所：名古屋商工会議所
- ・参加人数：約120人

「南海トラフ巨大地震に対応した代替輸送訓練（図上訓練）」

- ・日時：平成25年10月 9日（水）13時～17時30分
- ・場所：名古屋商工会議所
- ・参加人数：約90人

各港の取り組み状況について

事例② 国際フェリー貨物のロシア向け輸送実験(国際フェリー・国際RORO船)

新ルート確立のため、輸送実験を実施。稚内・コルサコフ間の国際フェリー定期航路を活用し、稚内発貨物をコルサコフで積み替え、ウラジオストクまで輸送。

【稚内港】

●輸送実験

実施日：平成25年8月12日～8月22日

輸送経路：稚内港～コルサコフ港(国際フェリー航路)

コルサコフ～ウラジオストク(定期航路)

荷姿：20Ftコンテナ1本(乗用車用タイヤ)



稚内コルサコフ間の国際フェリー



輸送実験貨物

事例③ 国際定期旅客便乗船客に対する利便性向上(国際定期旅客)

下関港国際ターミナルでは、平成24年7月より入国審査等の開始時刻を繰り上げ、さらに平成26年4月より出国審査等の開始時刻を1時間半繰り下げ、利便性向上に努めている。

【下関港】

●入出国手続き時間の変更

- ・入国手続き(平成24年7月より)

8:00開始を7:45に繰り上げ

- ・出国手続き(平成26年4月より)

18:00締め切りを19:00に繰り下げ



下関港国際旅客ターミナル(下関市HPより)

各港の取り組み状況について

事例④ クルーズ船を県民挙げて“おもてなし”する取り組み(外航クルーズ)

金沢港に出入港するクルーズ船を、石川らしい「おもてなしの心」で、歓送迎イベントを実施。石川のファンを増やしたいとの思いから、2013年春に「金沢クルーズ・ウエルカム・クラブ」を設立。会員数は3千4百人を超え、クルーズ船の乗客やクルーの皆様に好評である。

【金沢港】

クルーズ船入港時の“おもてなしの心溢れる”活動の様子

●クルーズ船寄港回数

- 平成24年(実績) 6隻
- 平成25年(実績) 18隻
- 平成26年(予定) 18隻



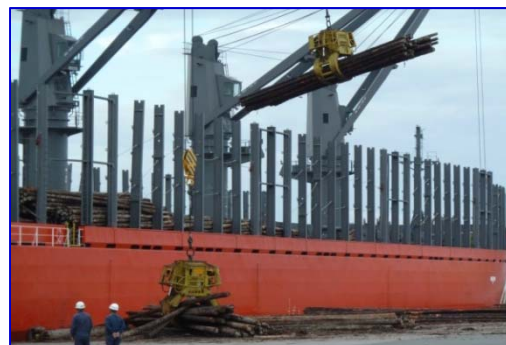
事例⑤ 他港との連携し、大型船による原料共同調達(大宗貨物(原木))

浜田港と境港が連携し、大型船による原料(原木)の共同調達を行い、輸入コスト削減に繋がった。【浜田港・境港】

福井地区 大型船による原木の荷役状況

●共同調達回数

- 平成22年(実績) 3回
- 平成23年(実績) 3回
- 平成24年(実績) 7回
- 平成25年(実績) 5回
- 平成26年(予定) 6回



各港の取り組み状況（機能別）について

①国際海上コンテナ（10港・9計画）

港名	代表的な取り組み事例	実績・成果
秋田港	・増加するコンテナ貨物に対応するため近隣するヤードを拡張（平成26年度末供用予定、10万TEUの取扱いが可能）	貨物量増加
新潟港	・「ロジスティクスソリューションフェア2013」において、日本海拠点港の取り組みと日本海横断航路等対岸航路の利用促進をPR	貨物量増加
伏木富山港	・ロシア極東航路とシベリア鉄道を活用した輸送実験を実施	貨物量増加
金沢港	・港湾間連携による、南海トラフ大地震を想定した代替輸送訓練のワークショップに参加（伏木富山港、金沢港、敦賀港）【4頁事例①】	貨物量増加
舞鶴港	・京都府知事による韓国船社等へのトップセールスを実施。	貨物量増加 韓国航路増便
境港	・鳥取県がASEAN地域における鳥取県内企業の展開支援、販売促進支援、観光誘致、情報発信をワンストップで対応するため「鳥取県東南アジアビューロー」をバンコクに開設	貨物量増加
下関港 北九州港	・新規定期航路就航に際し、岸壁使用料減免の継続実施に加え、平成25年度からは新規コンテナ貨物に対する助成も開始（下関港） ・入港料等の各種減免措置について検討中（北九州港） ・関門両港を寄港する船舶を対象に、入港料一元化を検討中（下関・北九州港）	貨物量増加
博多港	・H25.9より博多港物流ITシステム（HiTS）にスマートホン対応機能を追加（HiTS：WEBサイトを用いた、輸出入コンテナの手続き等についての情報をリアルタイムに把握できるサービス）	貨物量増加
伊万里港	・「伊万里港振興会」を中心に、韓国、中国、タイ、台湾、ロシア船社等、国内外の荷主、船社へのポートセールスを実施	貨物量維持

※実績・成果欄の取扱貨物量は、2010年と2012年の比較

各港の取り組み状況（機能別）について

②国際フェリー・国際RORO船（7港・6計画）

※実績・成果欄の取扱貨物量等は、2010年と2012年の比較

港名	代表的な取り組み事例	実績・成果
稚内港	・国際フェリー貨物をコルサコフ港でロシア船社へとつなぐ輸送実験を実施し、ロシア船社との連携を確認【5頁事例②】	貨物量増加
伏木富山港	・ウラジオストク向け国際RORO船の定期運航（平成24年10月）	貨物量増加
敦賀港	・中国山東省と敦賀港を韓国経由で結ぶ日韓中一貫輸送サービスの輸送実験を実施	貨物量増加
舞鶴港	・舞鶴港～浦項港 ^{ポハン} におけるフェリーによる輸送実験を実施	輸送実験増加 港湾計画改訂
下関港 北九州港	・H25.3より 関釜フェリーを利用した日韓ダブルナンバートレーラーの相互乗入れを開始	韓国航路減便
博多港	・日中間の国際RORO船においてICタグ活用や車上通関など輸送手続きの迅速化を実現	貨物量増加

③国際定期旅客（5港・3計画）

港名	代表的な取り組み事例	実績・成果
下関港 北九州港	・入国審査等の開始時刻を15分繰り上げ（8:00→7:45）、更に出国審査等の開始時刻を1時間半繰下げ予定（18:00→19:30）（下関港）【5頁事例③】 ・観光マップを作成（北九州市、下関市）	韓国航路減便
博多港	・観光客の利便性向上等を目的とした無料公衆無線LANサービス「Fukuoka City Wi-Fi」を提供	航路数維持
長崎港 佐世保港	・佐世保市と長崎県が韓国船社を訪問しポートセールスを実施 ・国際定期旅客船対応岸壁を長崎港港湾計画に位置付け（松が枝国際観光船埠頭）	2011上海航路誘致 （現在休止中） 港湾計画改訂

各港の取り組み状況（機能別）について

④外航クルーズ（定点クルーズ）（2港・2計画）

港名	代表的な取り組み事例	実績・成果
博多港	・全国レベルでクルーズ振興や誘致に係る必要な情報の共有や、共通する課題の解決を図ることなどを目的とした全国クルーズ活性化会議を設立（初代会長：福岡市長）	クルーズ船寄港回数増加
長崎港	・松が枝国際観光船ふ頭に大型クルーズ客船に対応した岸壁を港湾計画に位置付け	クルーズ船寄港回数増加 港湾計画改定

⑤外航クルーズ（背後観光地クルーズ）（5港・3計画、拠点化形成促進港1港）

港名	代表的な取り組み事例	実績・成果
小樽港 伏木富山港 舞鶴港	・旅客ターミナルを核とする交流空間として活用するための埠頭及び周辺再開発計画を策定中（小樽港） ・「伏木港クルーズ客船歓迎クラブ」発足、埠頭内にWi-Fi設置（伏木富山港） ・大型客船（11万トンの級）が着岸できる岸壁を港湾計画に位置付け（舞鶴港）	クルーズ船寄港回数増加 港湾計画改定
金沢港	・クルーズ船を県民挙げて歓送迎するため「金沢港クルーズ・ウェルカム・クラブ」を設立、会員数3,400人超、石川らしい“おもてなし”の心溢れる歓送迎を実施【6頁事例④】	クルーズ船寄港回数増加
境港	・ <small>ぎんれん</small> 銀聯カード導入や中国語表記による情報提供など中国人観光客の買い物満足度向上に向けた取り組みを実施	クルーズ船寄港回数増加
唐津港 (拠点化形成促進港)	・全国クルーズ活性化会議に加入し、積極的に国内外船社へのポートセールスを実施	クルーズ船寄港回数増加

※実績・成果欄の取扱貨物量等は、2010年と2012年の比較

各港の取り組み状況（機能別）について

⑥ 大宗貨物（原木）（2港・2計画、拠点化形成促進港2港）

港名	代表的な取り組み事例	実績・成果
境港	・合板の供給拡大や輸送効率化に向け、内航RORO船を活用した輸送実験を3回実施（境港～苫小牧港、境港～新潟港）	貨物量増加
浜田港	・境港と連携した大型船による原木の共同調達を実施（18回実施）【6頁 事例⑤】	貨物量増加
留萌港 （拠点化形成促進港）	・「留萌港の利活用に関する連絡会議」を開催。木材の輸移出、中国の経済発展に伴う木材需要の情報提供や意見交換を実施	貨物量増加
七尾港 （拠点化形成促進港）	・七尾港を拠点とした北米材のフィーダー輸送網の確立を目指した輸送実験を実施	着実な取組

⑦ その他貨物（LNGおよびリサイクル）（4港・3計画、拠点化形成促進港1港）

港名	代表的な取り組み事例	実績・成果
石狩湾新港 （LNG）	・平成24年11月石狩LNG基地営業運転開始 ・平成25年2基目のLNGタンク建設開始	貨物量増加
新潟港 直江津港 （LNG）	・新潟港より東北地方へ供給しているガスパイプラインを福島県郡山市へ分岐・延伸させることを決定 ・直江津港背後のガスエンジン発電所（電力小売り事業）の誘致に成功	貨物量増加
酒田港 （リサイクル）	・姫川港、能代港と3港合同勉強会を開催し、企業連携によるリサイクル貨物の混載、合い積みについて検討	貨物量増加
能代港 （拠点化形成促進港・リサイクル）	・国際循環資源フォーラムに能代港周辺のリサイクル関連企業、商工会議所、県、市が参加し、資源の国際利用について情報収集を実施	着実な取組

※実績・成果欄の取扱貨物量等は、2010年と2012年の比較

取り組み状況の取りまとめ結果

2012年度(平成24年度)の取り組みについて

【各港における取り組みについて】

各港における取り組みについては、協議会の設立をはじめ、港湾管理者を中心とする関係者が一体となって、計画の実現に向けた取り組みを継続して実施していることを確認した。

各港とも前回調査に比べ、意欲と熱意をもって様々な取り組みを更に進めていることを確認した。

【各計画の実績について】

各港湾管理者の積極的な取り組みによって、各計画の実績は選定時よりも選定後2年目の値が上回っているものが全体の約8割であった。

なお、一部の計画においては、社会情勢の変化等による航路の運休により、当初想定よりも実績が大きく下回っているものもあった。

【今後の取り組みについて】

今後も、各港においては、引き続き、計画の実現に向けた取り組みをさらに進め、2015年の中間目標を達成できることを期待したい。

参考資料：取扱貨物量等データ①

①国際海上コンテナ(10港・9計画)

港名	単位	2015年 目標値	2025年 目標値	2010年 実績値	2012年 実績値	2012年/ 2010年
秋田港	実入りのみ(TEU)	16,600	50,900	3,007	4,167	139%
新潟港	空コン含む(TEU)	208,000	287,000	115,831	121,483	105%
伏木富山港	空コン含む(TEU)	71,900	106,100	29,800	37,898	127%
金沢港	実入りのみ(TEU)	26,000	42,000	14,639	15,031	103%
舞鶴港	実入りのみ(TEU)	16,000	62,000	4,103	5,902	144%
境港	実入りのみ(TEU)	11,970	26,290	7,530	9,751	129%
下関港・北九州港	空コン含む(TEU)	358,000	503,000	249,554	317,190	127%
博多港	空コン含む(TEU)	532,360	887,266	443,632	507,676	114%
伊万里港	実入りのみ(TEU)	29,500	57,000	20,925	20,294	97%

②国際フェリー・国際RORO船(7港・6計画)

港名	単位	2015年 目標値	2025年 目標値	2010年 実績値	2012年 実績値	2012年/ 2010年
稚内港	便数(便/週)	---	5	1~2	1~2	100%
	貨物(トン)	---	58,550	733	979	134%
	乗客数(人)	---	52,760	3,903	4,219	108%
伏木富山港 ※実績は 国際ROROのみ	便数(便/週)	2	7	(2)	1(3)	---
	貨物(トン)	491,000	976,000	344,934	676,794	196%
	乗客数(人)	---	---	---	---	---
敦賀港	便数(便/週)	5	9	2	2	100%
	貨物(トン)	44,000	136,900	4,715	14,213	301%
	乗客数(人)	---	---	---	---	---
舞鶴港	便数(便/週)	2	5	実績なし	実績なし	---
	貨物(トン)	17,541	55,910			
	乗客数(人)	50,000	130,000			
下関港・北九州港	便数(便/週)	18	25	17	11~12	65~71%
	貨物(トン)	1,900,000	2,800,000	1,831,123	1,345,625	73%
	乗客数(人)	---	---	313,386	187,470	60%
博多港	便数(便/週)	達成済み	達成済み	9	9	100%
	貨物(トン)			1,099,760	1,111,925	101%
	乗客数(人)			692,927	635,290	92%

(注)
博多港は、応募年時点で既に目標設定基準を満たしていることから、数値目標は設定していない。

参考資料：取扱貨物量等データ②

③国際定期旅客(5港・3計画)

港名	単位	2015年 目標値	2025年 目標値	2010年 実績値	2012年 実績値	2012年/ 2010年
下関港・北九州港	便数(便/週)	15	20	15	10	67%
	乗降客数(人)	330,000	460,000	313,386	187,470	60%
博多港	便数(便/週)	達成済み	達成済み	42~63	42~63	100%
	乗降客数(人)			692,927	635,290	92%
長崎港・佐世保港	便数(便/週)	10	18	実績なし	1	---
	乗降客数(人)	681,000	1,372,000		7,377	

④外航クルーズ(定点クルーズ)(2港・2計画)

港名	単位	2015年 目標値	2025年 目標値	2010年 実績値	2012年 実績値	2012年/ 2010年
博多港	寄港回数(うち、外航)(回)	達成済み	達成済み	84(63)	112(91)	133%(144%)
	乗降客数(うち、外航)(人)			194,557(179,965)	221,410(210,290)	114%(117%)
長崎港	寄港回数(うち、外航)(回)	25(25)	107(107)	54(44)	73(72)	135%(164%)
	乗降客数(うち、外航)(人)	---	---	55,891(52,576)	81,157(80,797)	145%(154%)

⑤外航クルーズ(背後観光地クルーズ)(5港・3計画、拠点化形成促進港1港)

港名	単位	2015年 目標値	2025年 目標値	2010年 実績値	2012年 実績値	2012年/ 2010年
小樽港	寄港回数(うち、外航)(回)	---	34(19)	16(4)	19(8)	119%(200%)
	乗降客数(うち、外航)(人)	---	---	7,007(2,900)	8,038(4,218)	115%(145%)
伏木富山港	寄港回数(うち、外航)(回)	---	19(10)	5(0)	8(3)	160%(一)
	乗降客数(うち、外航)(人)	---	---	2,405(0)	6,596(2,641)	274%(一)
舞鶴港	寄港回数(うち、外航)(回)	---	14(9)	3(1)	3(2)	100%(200%)
	乗降客数(うち、外航)(人)	---	---	2,188(706)	1,583(861)	72%(122%)
金沢港	寄港回数(うち、外航)(回)	---	20(16)	6(3)	6(5)	100%(167%)
	乗降客数(うち、外航)(人)	---	6,347(4,531)	2,447(255)	2,709(2,109)	111%(827%)
境港	寄港回数(うち、外航)(回)	26(16)	58(48)	10(3)	16(10)	160%(333%)
	乗降客数(うち、外航)(人)	---	55,000(50,000)	5,138(255)	8,920(5,860)	174%(2,298%)
唐津港(促進港)	寄港回数(うち、外航)(回)	7(3)	14(11)	1(0)	4(0)	400%(一)
	乗降客数(うち、外航)(人)	4,400(2,400)	10,800(9,000)	524(0)	1,680(0)	321%(一)

(注)
博多港は、応募年時点で既に目標設定基準を満たしていることから、数値目標は設定していない。

参考資料：取扱貨物量等データ③

⑥ 大宗貨物(原木) (2港・2計画、拠点化形成促進港2港)

港名	単位	2015年 目標値	2025年 目標値	2010年 実績値	2012年 実績値	2012年/ 2010年
境港	貨物量(トン)	750,000	1,020,000	379,268	377,640	100%
	3万DWT級 入港回数	---	---	11	21	191%
浜田港	貨物量(トン)	300,000	500,000	136,097	138,074	101%
	3万DWT級 入港回数	14	13※2	6	11	183%
留萌港(促進港)	貨物量(トン)	---	330,000	7,891	12,942	164%
	3万DWT級 入港回数	---	---	---	---	---
七尾港(促進港)	貨物量(トン)	375,000	351,000	102,254	80,773	79%
	3万DWT級 入港回数	---	---	7	4	57%

⑦ その他貨物(LNGおよびリサイクル) (4港・3計画、拠点化形成促進港1港) (LNG)

港名	単位	2015年 目標値	2025年 目標値	2010年 実績値	2012年 実績値	2012年/ 2010年
石狩湾新港	取扱量(トン)	3,100,000	4,600,000	0	192,637	---
	入港回数(回)	40	59	0	2	---
新潟港・直江津港	取扱量(トン)	14,000,000	20,000,000	7,084,721	13,034,230	184%
	入港回数(回)	---	---	55	96	175%

(リサイクル)

港名	単位	2015年 目標値	2025年 目標値	2010年 実績値	2012年 実績値	2012年/ 2010年
酒田港	輸出(万トン)	20	35	15.3	18.7	122%
	輸入(万トン)	---	10	0	0	---
	合計(万トン)	20	45	15.3	18.7	122%
能代港(促進港)	輸出(万トン)	8	13	5.3	2.4	45%
	輸入(万トン)	---	5	0	0	---
	合計(万トン)	8	18	5.3	2.4	45%